令和２年４月２日（木曜日）

日本工業経済新聞

【参院決算委】安倍首相「公共投資の早期執行で景気下支え」／足立敏之議員が質問

足立議員の質問に答える安倍首相（左）

1日に開かれた参議院決算委員会で、自由民主党の足立敏之議員が緊急経済対策としての公共事業の実施やインフラの整備・老朽化対策等について質問し、安倍晋三首相が公共投資の早期執行で景気を下支えする考えを表明した。

足立議員は、新型コロナウイルスの影響に対し日本経済をV字回復させるため、政府が強大な経済財政対策を講じる考えを示していることに触れ、「インフラ整備に対して思い切った大型の補正予算の実現をお願いしたい」と要望した。安倍首相は「来週に緊急経済対策を取りまとめて、前例にとらわれることなく経済、金融、税制を総動員して思い切った措置を講じていく」と説明。公共投資については「経済の活性化や防災・減災、インフラ老朽化対策などの国土強靱化等に直結するものであり、必要かつ十分な公共投資を機動的に推進することが重要と考えている」とした上で、今回の緊急経済対策に際しては2019年度補正予算や20年度当初予算における公共投資の早期執行により「景気の下支えに万全を期してまいりたい」と答弁した。

また足立議員は、日本のインフラ整備水準は世界の水準から見て「二流・三流に落ち込んでしまっていると強く感じている」と指摘、現状に対する見解を求めた。これに対し安倍首相は「近年の災害の激甚化や国際競争の激化等を踏まえて、引き続き中長期的な見通しの下、効率化を図りながら計画的に社会資本の整備を推進してまいりたい」とした。さらに、インフラの重要性にも言及し「老朽化にもしっかりと対策を講じながら、安心できるものにしていきたい」と答えた。